

一般質問



木田 昇
(大分市)

「将来の食料危機に 備えよう」

①フードテックについて

(質問) 現在でも世界人口の約1割は飢餓にあるとされるが、昨今の気候変動やコロナ禍によりさらに深刻な世界的食糧危機の到来が予測されている。こうした中、注目されるのがフードテック。特に代替タンパク質は、食料不足への懸念のほかにも健康志向の高まりから、欧米、アジアを中心に市場が急速に拡大している。

本県においても老舗の醤油メーカーが食用コオロギを使った醤油を開発し、既に販売を開始している。昆虫食ビジネスを始めフードテック産業の育成支援、特に商品開発や販路開拓への支援に対する県の見解は？

(答弁) 県では、産業科学技術センター内に「おおいた食品オーブンラボ」を開発し、「コオロギ醤油の開発における技術相談を受けて対応してきた。また、代替肉である大豆ミート入りの巻き寿司を開発し、輸出に取り組む企業に対し、生産販売システム等

の導入を支援してきた。ミールワームという昆虫を飼育し、代替タンパク質として販売する取組も応援している。今後も、フードテックに挑戦する企業を支援する。

②在来種の継承について

(質問) 在来種は生育の揃いは良くないが、「野菜本来の味わいが楽しめる」、「F1種に比べ、環境適応能力が一般に高い」等の特徴がある。また、化学肥料や農薬のない時代に生まれたものが多く、有機栽培に向いているし、ほかの土地にない農産物として、地名を冠したブランド野菜も将来性が見込める。

本県の各地域に根ざした特色ある農作物の種苗を、新たな地域ブランド品として展開するため、市町村とも連携して発掘し、認定するなど、まずは、認知度向上に取り組んではいかがか。地道な活動を続けることで、農家にも、消費者にも在来種の良さが浸透し、在来種を繋いでいく土壌が育つと思うが県の考えは？

(答弁) 国の農研機構が、収集等を行った県内の種子を農業生物資源ジーンバンクに306件保存している。今後必要に応じて、この施設での種子の保存を検討する。在来種については、地元でストーリー性を持たせて、地域振興のツールとして活用す

ることなどが考えられ、このような市町村等の取組が出て来れば、県としても対応を検討する。

*この他、「地方回帰と移住政策」「地方移住のサポート体制」「ユニバーサルツーリズム」「サイクルツーリズム」「観光コンテツとしての空港の活用」「青少年のICTの利用」について質問。

一般質問



平岩 純子
(大分市)

子育て満足度日本一をめざすのであれば

平和から遠くなる世界情勢の中で広瀬県政は20年目を迎えます。知事の政治姿勢を問い、一党に偏らない県民党であることを要望し、子育て支援策の拡充を求めて質問しました。

子どもの居場所づくり、里親支援、単身者やLGBTQの里親

県内里親は、全国平均より増えています。「子どもの最善の利益」を大切にして厳しい環境で育った子どもとの時間を紡いでいますが、それは簡単なことで

はありません。家庭的養護が進んだ背景と今後の方針、単身者やLGBTQの里親認定について質問しました。

全国に先駆け、専任職員を中心に里親募集やマッチング、制度の普及、委託後の支援に取り組んできた。日本財団と連携して、里親家庭への訪問やレスパイトケアを行う「児童家庭支援センター」を佐伯市と日田市に開設する。今後も市町村と連携して家庭擁護を推進していく。

単身者やLGBTQの方の里親認定は特段異なることなく、専門家の意見を伺いながら丁寧に対応していく。

県内単身者の里親は5世帯。大阪、名古屋では男性カッパルが里親認定されています。

教員の

育児短時間勤務について

育児短時間勤務はそれをカバーする非常勤教員が必要となり、学級担任をすることは現実的でなく、小規模校では取りづらい制度です。短時間勤務教員を定数外とし、県単独で予算措置すれば、フルタイム勤務教員プラス育児短時間勤務教員という体制になり、気兼ねなく育児短時間制度を取得できると考えました。

教職員の定数については、標準法で定められており、定数外とすることはできない。

良い制度があっても、使えないのでは意味がありません。制度が周知されてなく管理職が「使ってほしくない。」と言われることもあります。若い教員が増え、頻繁に異動させられる現状の中で、保育所の送迎など大変な状況に置かれています。教職員にも子育て満足度日本一が叶えられるよう願います。

子どもへの

ワクチン接種について

県での進め方について質問しました。

感染に占める小児の割合が増えている。重症化リスクは低いが、全国で中等症や重症例が確認されていることから基礎疾患を有する小児への接種は重要。小児科での個別接種を中心とし、接種券と合わせて接種の効果と副反応を解説したリーフレットを送付し、正しい知識に基づいて保護者の判断をいただく。手続きの簡素化や同調圧力、差別が起きないように啓発している。

他に福祉関係職場の専門人材育成、教職員の心のケア、夜間中学校について質問しました。全文はHPに掲載しています。

